様々な人・もの・事柄との出会い

ー（赤線）囲みは5歳児の言葉
ー（黄線）囲みは4歳児の言葉
ー（緑線）囲みは教師の言葉や思いです。

七夕

地域の松殿山荘さんに笹をもらいに行き、未就園児と一緒に自分でつくった笹飾りを付けました。七夕の集いではフルート演奏を鑑賞し、なじみのある曲を澄んだ音色で味わいました。フルートに触れさせてもらったり演奏に合わせて踊ったり、楽しいひとときを過ごしました。

大きい笹を幼稚園まで持ち帰り

笹に飾り付け

ボタンがいっぱいある。
押してみたい

フルートに触れる体験

幼稚園交流活動

神明幼稚園や東宇治幼稚園の友達と一緒にいろいろな遊びをしました。

水鉄砲遊び（木幡幼稚園にて）

一緒に体操（神明幼稚園にて）

プール遊び（神明幼稚園にて）

木幡幼稚園の
プールと一緒の色

引っ掛けて
釣るねんで

魚釣りごっこ

縁日ごっこ

東宇治幼稚園にて

リズム遊び

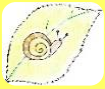
友達が
できたよ

もう１回したい

昼食

保育の
エピソード

「カタツムリさん」 4歳児



4月

Aちゃんが「カタツムリ見付けてん」と、手に持ち登園してきました。
『カタツムリさんのお家』をつくり、幼稚園で世話をしていくことにしました。

カタツムリって
何食べるんかな

カタツムリさんの
お家をつくりたい

幼稚園で
お世話しよう

カタツムリさん
かわいいね

6月上旬

何日かはカタツムリの様子を見たり世話をしたりしていましたが、子どもたちが
好きな遊びに夢中になり、カタツムリのことを気に掛けなくなってきました。

生き物を命あるものとしていたわる気持ちや大切にしようとする気持ちをもって
ほしいな。子どもたちに投げ掛けてみよう

「カタツムリさんは何て言ってるんやろう」「誰かカタツムリさんの声が聞こえるよ、っていう人はいるかな」
と教師が問い掛けると、子どもたちは「聞こえる聞こえる」「狭いお家やし、ご飯無いから嫌やよって言ってる」
「そうやな。逃がしたくなかったけど、カタツムリさんが喜ぶと思うし、逃がしてあげよう。」と次々と話し、
Aちゃんがカタツムリを見付けた場所に皆で逃がしに行こうと話が決まりました。それから逃がしに行く
までの間、カタツムリの様子を気に掛け世話をする子どもたちが増えました。

カタツムリさん
元気ないみたい

お水が足り
ないんとちがう

シュッシュして
あげよう

あっ元気に
なってきた

お家もきれいに
してあげよう

ご飯も入れて
あげなあかん

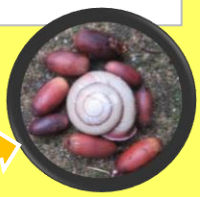
カタツムリさん、お世話
してくれてありがとうって
言ってるかな

カタツムリのことをとてもよく考えて、大切にする気持ちをもって関わっているな。
世話もとても上手。このまま飼うことができるんじゃないかな。
子どもたちの思いをもう一度確認してみよう

教師が子どもたちの思いを聞いてみると「カタツムリさん広い方が良いなあ」「美味しいご飯食べてほしいな」など話し、
Aちゃんがカタツムリを見付けた場所に皆で逃がしに行きました。

ここら辺で
見付けた

さようなら。
カタツムリさん
元気でね



・ 子どもたちの興味関心に応じて声掛けをしたり、さり気なく援助したりしながら、子どもたちがしたいことを
実現できる満足感を味わえるようにしています。
・ 子どもたちが何に興味をもち、どうしたいと思っているのか、何に行き詰まっているのか、など深く読み取りながら、
一人一人がそれぞれのペースで主体的に考え行動していく過程を大切にしています。

保育の
エピソード

「あ、お水あげなくっちゃ」5歳児

幼稚園では、食育の一環として、夏野菜を育てています。野菜の育ち方を知ったり、愛着をもって育てたりすることで、おいしく野菜を食べられるようにと願っています。

1人1つずつのトマト

生長の様子を見たり「自分のトマト」として責任をもって世話をしたりできるよう、保育室の近くに置きました。

トマトに親しみをもち、大切にできるよう

トマトに名前を付けてネームプレートをつくる

自分のって分かりにくいから、〇〇（苗字）トマトちゃんにする

好きなキャラクターの名前にしよう

色を塗ったり絵を描いたりして自分専用オリジナルペットボトルじょうろもつくりました。

畑の夏野菜

夏野菜の種類や幼稚園の畑で育てたい野菜について、子どもたちが各家庭で調べ相談したことを持ち寄り学級で話し合った結果、キュウリ・トウモロコシ・エダマメ・オクラ・メロンを育てることにしました。

お兄ちゃんが、キュウリが育つ、って言ってた

キュウリ好きやし育ててみたい

ところが…

なかなか子どもたちの気持ちが水やりに向かないな
雨も降るから、枯れることはないし・・・
花の栽培なら興味をもてるかな
グループごとに植えてみようかな

アサガオ・フウセンカズラ

主体的に水やりをしようとする子が増えたな

すると…

コーングループのアサガオが先に芽が出てきた

コーングループさん皆、毎日お水あげているものね

子どもたちの気付きを学級に広めよう

Aちゃん

私も知ってたよ

あ、水やるの忘れてた

翌日、遊び始めたAちゃんに

Aちゃん、お水あげた？

あ、お水あげなくっちゃ

Aちゃん

友達同士で声を掛け合いながら水やりに向かうようになってきました

子どもたちには、自ら身近な環境に興味をもち、様々な物事を「自分事」として捉え、主体的に遊んだり生活したりしてほしいと願っています。教師は、そのための「環境構成」や「仕掛けづくり」を子どもたちの実態から見極め、わくわくしながら試行錯誤することを大切に保育をしています。